

もの知り こどもタイムズ

学 び こどもと お楽しみ えいGO

こども記者は、知的システム工学科の中基隆教授(44)の研究室を訪ねた。コンピューターに命令・実行を指示する「プログラミング」の教育が2020年度から小学校で必修化されるのを前に、中基さんは飯塚市内の小中学校で、ソフトバンクグループが開発したA Iロボット「Pepper(ペッパー)」を使う授業に取り組んでいる。中基さんにA Iのことを教えてもらった。

九工大 中基隆教授に聞く

主権は人間にある 体験すれば親しみも

一口で聞かせるなら、A Iとは、蓄積された過去のデータから現在の状況を読み取り、これからの変化を予測する技術のことです。これまでA Iには何回かのブームがありました。第1次はコンピュータの開発が進み、人工知能という言葉が生まれた1950年代。第2次がコンピュータが普及した80年代です。いずれもデータ量やコンピュータの性能向上、能力の不足で思うようには進まなかったことが

な成果が生まれてきました。現在の第3次A Iブームが起った背景には、ビッグデータ(情報の集積)が、データの技術的成熟を社会にアピールしました。

「A Iが人間の仕事を奪う」といった脅威論は、A Iが急速に進化した反動から生まれたものでしょう。そこにはA Iという未知の存在への不安があります。しかし、ペッパーを使うプログラミングを体験する中で、子どもたちは人間とA Iの役割分担を考え

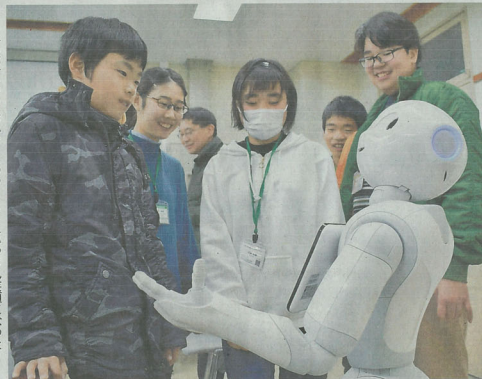


中基隆教授

AIと 私たちの未来

- AI愛憲法**
- 第一条 AIを戦争などに使わない
 - 第二条 AIは義務教育を受ける
 - 第三条 人間はA Iを活用しゆとりある社会をつくる
 - 第四条 ゆとりを生かして人間は人間にしかできない仕事を創造する
 - 第五条 A Iと人間はお互いを愛す

研究室にあるペッパーとやりとりしやれ笑顔になった



将来は小学校の先生に 淵上 高輝記者



急激な進化にとまどい 共存のための憲法考えた

こども記者 in 九州工業大

薬剤師になりたい 岡 小夏記者

社会に余裕できれば

将来は薬剤師になりたい。A Iとどう共存すれば社会に余裕がで、ストレスなどが原因で起る病気を減らせよう。私たちはA Iのことを知らない。人間がA Iを恐れるのは、A Iの方が人間より上と信じ込み、漠然とした不安をおぼえるからだ。A Iに何ができて、どう使うのかは専門家の間でも意見がまとまらない。A Iと人間は、お互いの得意なこと、できないことを尊重し、人として許されないような悪いことをA Iは教えない、というルールを作るべきだ。中基先生の話を聞いて、A Iは人の仕事を奪うのではなく、人がすべき仕事の時間を与えてくれると思う。『A Iは愛だ』と思える未来にしよう。(福岡市・奈多小6年)

救急救命士を仕事に 飯塚 拓人記者

絶対、戦争に使わない

僕がなりたい仕事は救急救命士。A Iがけが人や病人を受け入れる病院を探し、自動運転の救急車で渋滞を避けて運ぶ。救急救命士は運送の人のケガに集中し、優しい言葉をかけて元気づける。同じことをA Iがしても助かった気分にはならないのと思う。

算数や科学的な問題への答えはA Iに従うが、人の気持ちや道徳に關わる問題はA Iが人間の感覚に従って、心や体が疲れないA Iを戦争に使っては絶対にいけない。結果は必ず人間にね返ってくる。

それは何かを考える。A Iは人間の幸に集中し、優しい言葉をかけて元気づける。同じことをA Iがしても助かった気分にはならないのと思う。

産婦人科医をめざす 小野 純葉記者

平和のため力を貸して

私は産婦人科医になりたい。妊婦さんや赤ちゃんを相手にする仕事なので、人間でなければできない、本心にのこった思いや、大事にしたい。A Iは画像データの分析や管理を手伝ってくれる。A Iは人間の知能を超え、暴走した手に負えない可能性を越えて、A Iには人間につき

あつたための最低限のマナーやマナーを学んでほしい。人間の気持ちを理解して、傷つけるようなことは言わないとか、いきなり大声で話しかけないとか。

人間の世界で悪とされることも知り、手を貸さないでほしい。どうすれば世界から核兵器や貧困、食糧問題をなくせるのか、私たちが一緒に考え、平和のために力を貸してほしい。(福岡市・有田小5年)

人間守ること最優先に

夢はロボットエンジニア 藤原アレックス 俣智朗記者

僕の影響はロボットエンジニア。ロボットを作るための新しい発想は人間にしかできない。それを表現する手伝いをA Iがするのは、将来に必要だと思う。

「A I愛憲法」の中に「義務教育を入れたのは、A Iが人間の生活を豊にする行為に使われてはいけないから、だ。必ず法律や道徳を学ぶ、人間を守ることを最優先に」

考えてほしい。人間が自分の都合のいいようにしたがる統計的な分野はA Iに任せ、厳しく管理してもらった方がいい。人間にも正しくA Iを使う教育を義務づけるべきだ。

A Iの考えと僕の考えが違えば、他の人と一緒にA Iの考えを聞く、A Iの進化次第では、人間のように授け、人と同じ権利を認めることも必要だ。(福岡市・博多小6年)

「いじめ」なくせるかも

僕は小学校の先生になりたい。生徒に合うように、もつ時間を考えれば、いじめなどの問題をなくすことができると思う。A Iが便利なものになるの、か期待外れに終わるのか、まだ分からない。ただ、人間が本当にしなければならないことは何か、と考えさせてくれるのはとてもいいと思う。

先生がやるべきことはそれの子にもあわせて

編集部から

スマートフォンが普及し、音声でA Iにネット検索を頼める時代。取材に参加したこども記者たちは、最初からA Iを一つの「人格」として見ていた。プログラミングを体験し、中基さんを交えてA Iについて考えるうちに、脅威論よりもA Iをどう活用するかに子どもたちの関心は移った。

「憲法」を考える過程では「A Iを傷つけない」「人間がいばらない」など、クラスのルールづくりのりです。憲法名は小野記者が考えたものが議論の中心をよく表していると思います。小学校でのプログラミング教育が始まれば、A I開発を将来の仕事にしたい、と考える子も増えるだろう。こども記者のやりとりを聞きながら「A Iと人間の未来は明るい」と感じた。

◇「いきいきいきもの」と「ひまわり」は休みました。